

横浜市 都心臨海部夜間景観形成ガイドライン

(素案のたたき)

令和3年10月

横浜市都市整備局

目次

第1章 はじめに	1
1. ガイドライン策定の背景と目的	1
2. ガイドラインの位置づけ	4
第2章 夜間景観を考える際の基本的事項	5
1. 都心臨海部の立地特性	5
2. 本市における景観づくりの考え方	7
3. 夜間景観の特性	8
第3章 夜間景観の方向性	9
1. 魅力ある夜間景観により実現したいこと	9
2. 夜間景観の方向性	13
第4章 地区別の方針	24
1. 関内地区	24
2. みなとみらい21 中央地区	26
3. みなとみらい21 新港地区	28
第5章 光の作法	30
1. 魅力的な光のあり方	30
2. まちの魅力を高める照明手法等	33
3. その他の配慮事項	388

第1章 はじめに

1. ガイドライン策定の背景と目的

1-1. 策定の背景

都心臨海部は、横浜開港の地であり、中心地として発展してきた港町横浜を象徴するエリアです。現在でも多くの市民や観光客が訪れる観光地であるとともに、経済の中心を担う地域でもあり、市全体の発展をけん引する役割を持っています。また、こうした立地にありながら、横浜三塔や赤レンガ倉庫をはじめとした歴史的建造物や山下公園、日本大通り、みなとみらい21地区を擁する、商業・業務・文化・歴史の中心地でもあります。

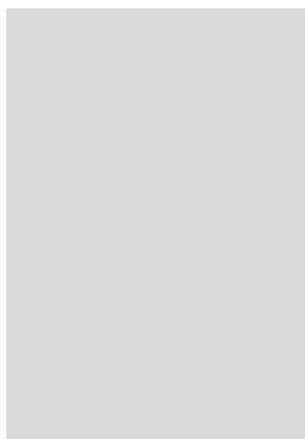
横浜市ではこれまで、横浜市景観ビジョンを定め、景観法に基づく横浜市景観計画の策定、景観条例（横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例）に基づく都市景観協議地区の指定など、地域特性を活かした取組を進めてきました。また、夜間に関しても地区ごとの特性を強調し、街のシンボルを際立たせる夜間景観の形成・誘導を行ってきました。

一方で、人々の生活時間の変化に伴い、市民活動が夜遅くまで行われるようになり、夜の街並みを楽しむニーズが一層高まりつつあります。

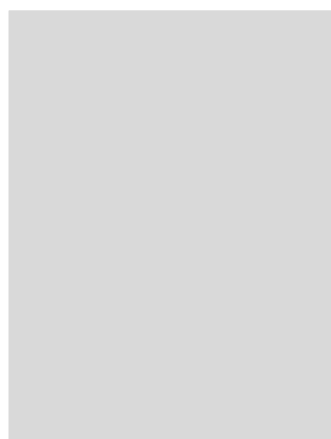
本市では、1986年に全国に先駆けて開催した「ライトアップヨコハマ」をはじめ、夜間景観を楽しむ取組を行ってきました。「ヨコハマ夜景演出事業推進協議会（2016年度末解散）」を設立し、関内エリアを中心に開催したこのイベントでは、開港記念会館や横浜海岸協会など12の歴史的建造物を一斉にライトアップすることで、夜の賑わいを演出するだけでなく、開発圧力により消えつつあった、横浜の個性とイメージを形成する大切な歴史的建造物に目を向け、まさに「光を当てる」ことを目的としました。

まだ「ライトアップ」という言葉が一般的には使われていなかった時代に、市民・マスコミからの反響は大きく、実験的取組から常設化へと繋がりました。その後も実験的取組を重ねながら、山手や新港地区などより広いエリアの歴史的建造物や、ベイブリッジなどの港を象徴するシンボルに対象を広げ、ライトアップは横浜における夜の都市を総合的に演出する手法として確立されました。

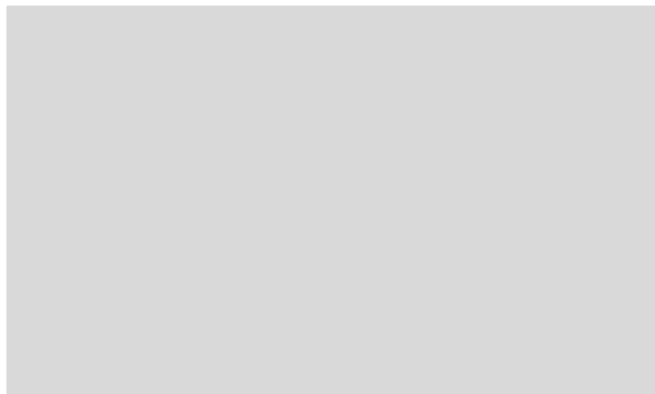
街の「灯り・光」は、交通安全の確保のための街路灯や防犯灯、商業用のネオンサイン等がほとんどであった時代に、夜の都市を人間的で魅力的な空間に見直そうとする、全く異なる発想からライトアップが生まれたといえます。



ライトアップヨコハマ パンフレット



スマートイルミネーション横浜 (2012) リーフレット



赤レンガパーク実験 (1996)

近年では、多色 LED ライトやプロジェクションマッピング等の映像装置・投影装置など、光を演出する技術が急速に発展し、民間施設においても夜間の照明演出がしやすい環境が整ってきています。また、人々の生活様式も一層多様化し、夜間においても屋外空間や都市空間を楽しむニーズが高まっています。

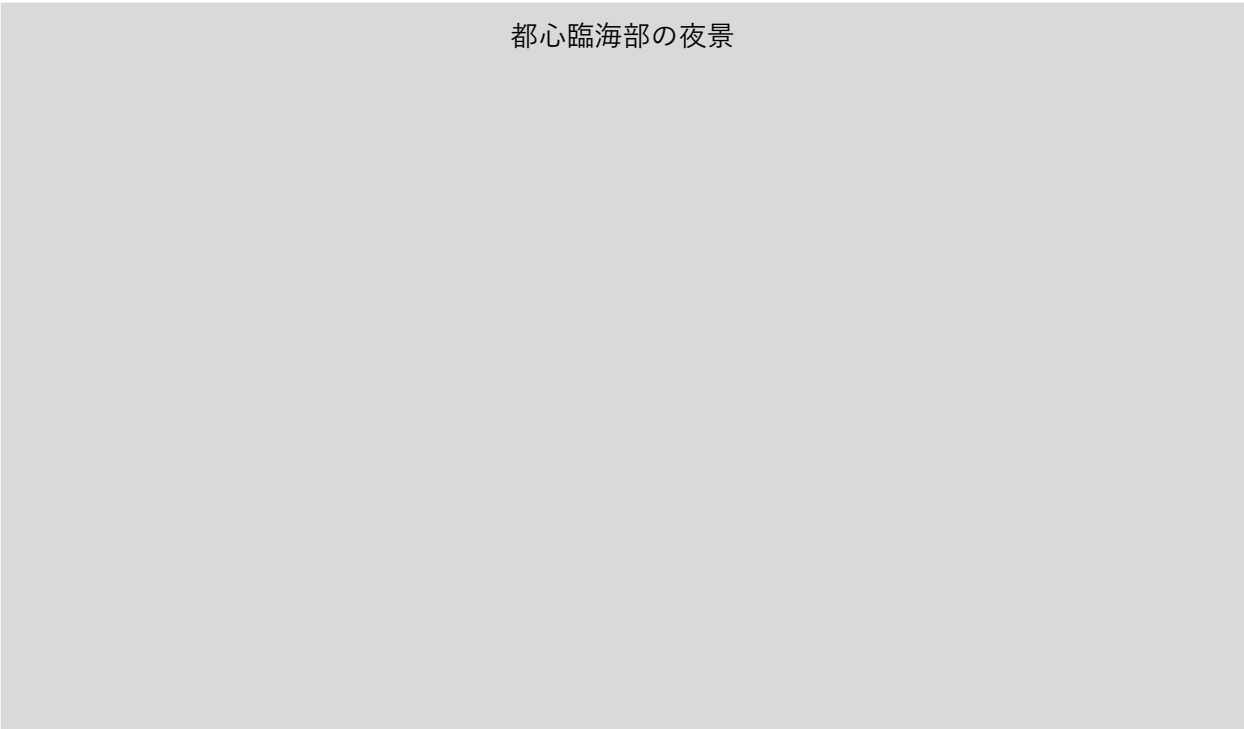
これまでの取組における考え方を継承しながらも、これからも横浜の都市の魅力を生み、より一層高めていくため、地形や歴史、建築物といった横浜の景観資源を活かしながら、夜間においても横浜ならではの景観を守り・育み・魅力的なものにしていく必要があります。

1-2. ガイドラインの目的

本ガイドラインは、都心臨海部が目指す夜間景観のあり方を示し、景観形成に関わる様々な主体が一体となって横浜らしい魅力的な夜間景観形成を進めていくための指針です。

市民・事業者・行政など、それぞれの主体が、夜間景観形成の方向性や技術に対する理解を深め、個別の計画や設計に適切に反映していただくことにより、都心臨海部の夜間景観を一層魅力的にしていくために策定するものです。

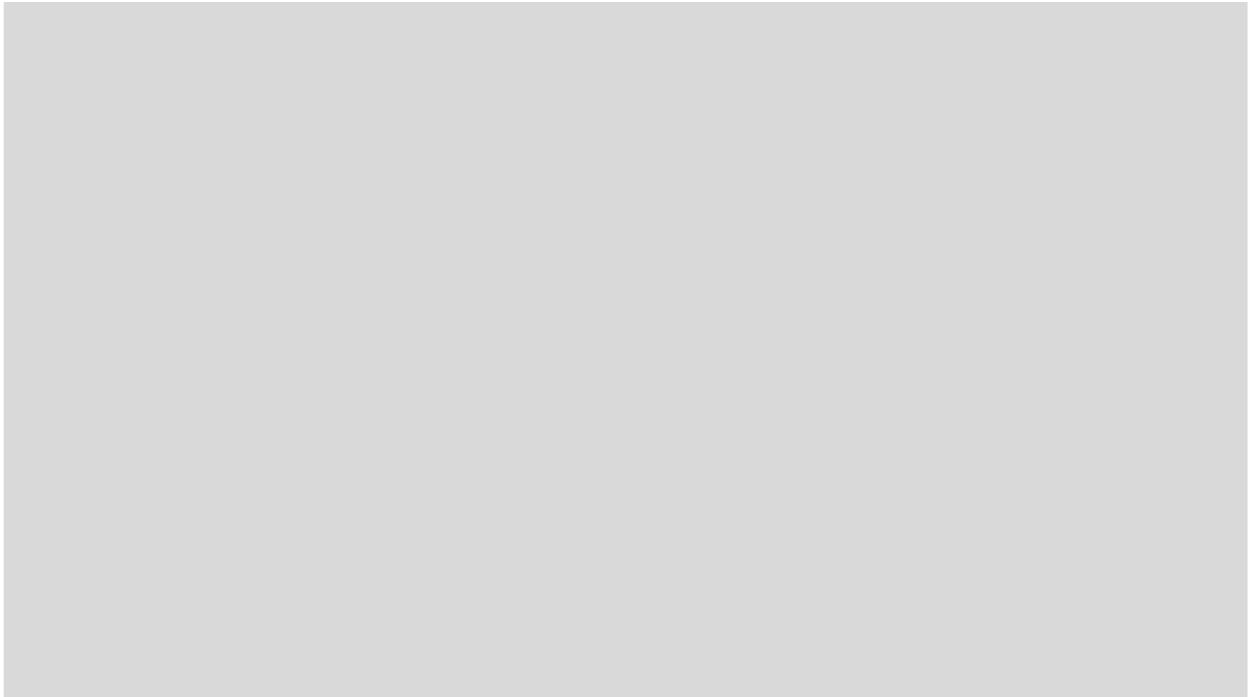
都心臨海部の夜景



1-3. ガイドラインの対象範囲

本ガイドラインは、下図に示す都心臨海部（横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、東神奈川臨海部周辺地区、山下ふ頭周辺地区）を対象とします。なお、景観推進地区（景観計画）および都市景観協議地区として指定され景観制度上のルールが定められている3地区（関内地区、みなとみらい21中央地区、みなとみらい21新港地区）については、詳細な方針を示します。

また、都心臨海部以外の地域においても、本ガイドラインの考え方や光の作法が活用・展開できるように作成するものとします。



ガイドラインの対象範囲

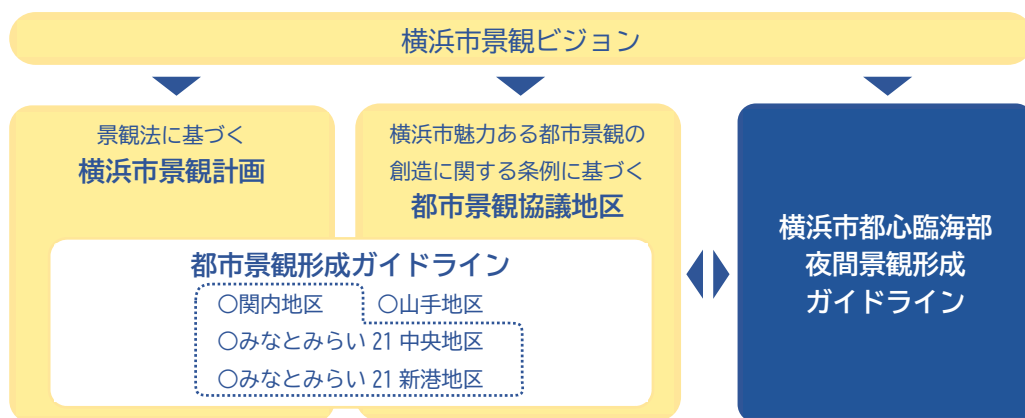
2. ガイドラインの位置づけ

横浜の魅力ある夜間景観の形成は、市民・事業者・行政が共有すべき内容を景観形成の指針として定めた「横浜市景観ビジョン（以下、「景観ビジョン」）」を推進するための重要な取組のひとつです。

景観ビジョンでは、横浜らしい景観をつくるポイントのひとつとして、「街の個性を引き立たせる夜間景観」を掲げています。また、景観ビジョンのもと、景観法に基づき基本的・定量的なルールを定めた「横浜市景観計画」、景観条例に基づき魅力ある都市景観の創造に向けて一定の行為に対して市と協議（都市景観協議）を行うことを定めた「都市景観協議地区」の二つの制度を運用し、夜間景観の演出等への配慮を求めています。

また、本ガイドラインの対象である都心臨海部には、地区ごとのルールを定めている関内地区、みなとみらい 21 中央地区、みなとみらい 21 新港地区を含み、地区別に策定している都市景観形成ガイドラインにおいて、それぞれの地区の方針や具体的な取組内容が示されています。

本ガイドラインは、都心臨海部において横浜らしい魅力ある夜間景観を形成するための方向性やポイントを示したものであり、上位計画や関連計画、各種関連施策等との連携を図りながら運用を行います。



ガイドラインの位置づけ

第2章 夜間景観を考える際の基本的事項

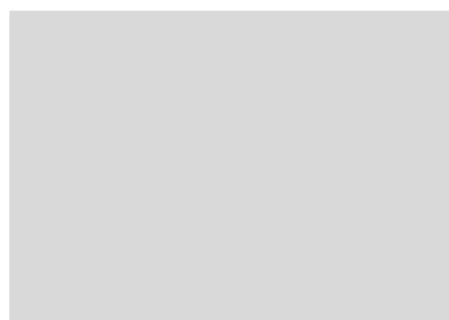
都心臨海部における夜間景観を考える際のベースとなる事項をまとめています。これらをもとに、次章で本市が目指す都心臨海部における夜間景観の方向性を示します。

1. 都心臨海部の立地特性

都心臨海部ならではの、地形的特徴などの立地特性は次のとおりです。

海を取り囲むインナーハーバー

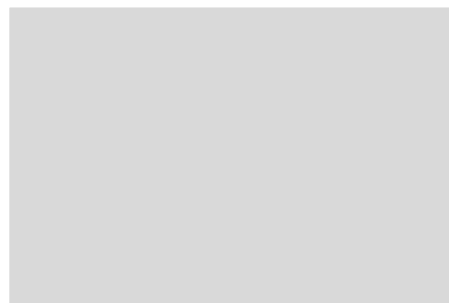
- 都心臨海部の特徴は、埋立によってできたふ頭に囲まれた内港（インナーハーバー）であることです。
- 海上からは、個性的で多様なエリアが隣り合ったパノラマや、ベイブリッジやマリインタワーといった特徴的な建造物を楽しむことができます。
- インナーハーバーを活かした雄大なスケール感で「横浜らしさ」を感じさせることが可能です。



都心臨海部周辺全景

大小様々な内水面

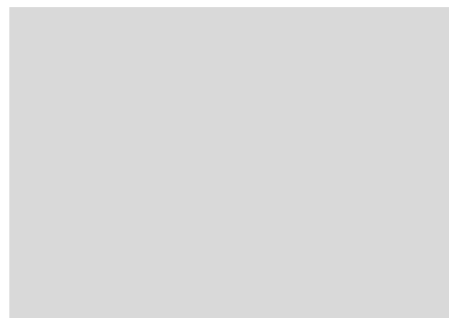
- 帷子川、大岡川、中村川（堀川）等の河口に位置し、島状の埋立地などに囲まれた大小様々な内水面があります。
- 内水面を挟んで対岸がよく見えることから、「見る」「見られる」の関係が随所に点在しています。



大小様々な内水面

平坦な地形

- 都心臨海部には、埋立等による平坦な地形が広がっています。
- 山手などの眺望点から見渡す・見下ろす景観だけでなく、水面越しの対岸を臨んだり、歩きながら移り変わる夜の街並みを眺めたりと、アイレベルからの視点場が変化していくことが特徴です。



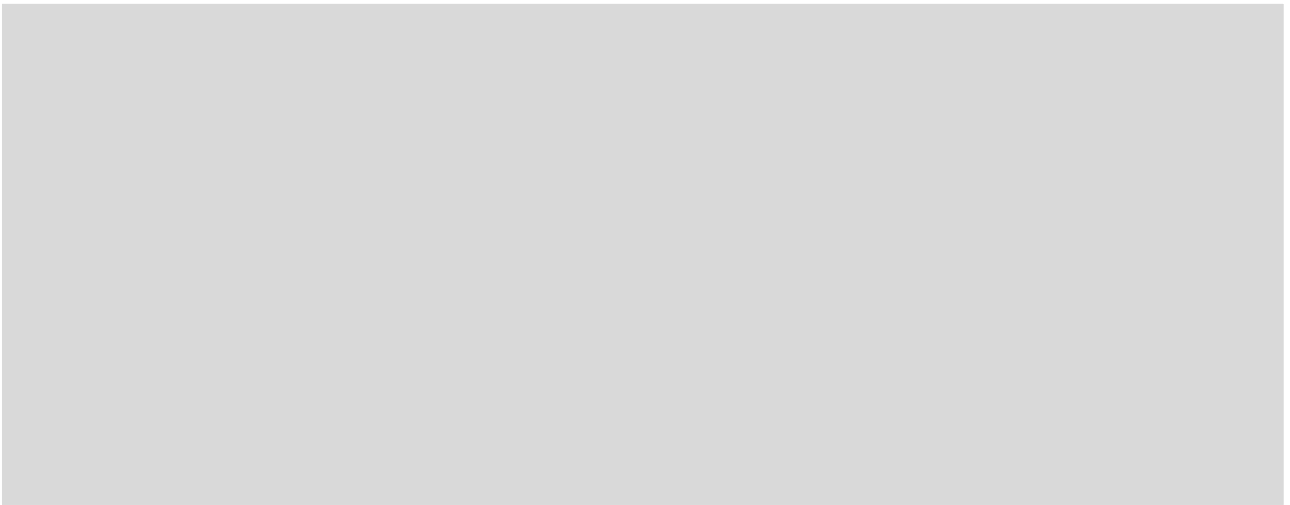
都心臨海部の平坦な地形（標高図）

林立する高層ビル

- 都心臨海部には、オフィスやマンション、ホテルなどの高層ビルが林立しています。
- こうしたビルの高層階は、住民や来訪者などが、様々なアングルから街を見下ろす場所になり、横浜の特徴である地形や建物といった都市の構造を一望することができます。



みなとみらいの高層ビル群



海上から都心臨海部のパノラマ

2. 本市における景観づくりの考え方

本市ではこれまでも市民や事業者とともに、夜間景観を含む魅力的な景観形成を進めてきました。他にない横浜らしい魅力を形成するため、景観ビジョンにおいては大きく以下の点を大切にしています。

横浜らしい景観をつくる10のポイント（横浜市景観ビジョンより）

①街の個性と調和の取れた魅力的な街並みの形成

- 多様な個性あるエリアごとに、そのエリアならではの景観を守り、育てていきます。

②安全で快適な歩行者空間の景観づくり

- 景観を体験する場として、歩行者が安心して心地よさを感じられる空間を形成します。

③歴史的景観資源の保全と活用による景観づくり

- 街の記憶でありシンボルである歴史的建造物を、街の資源として大切に保全・活用します。

④水と緑の保全・活用と創出による景観づくり

- 人々に潤いと安らぎを与える資源である水・緑の空間は、質の高い空間演出を行い、街の魅力づくりに繋がります。

⑤身近な生活空間での景観づくり

- 一人ひとりができることから行動し、良好な生活空間を形成します。

⑥人々の交流や賑わいの景観づくり

- 空間だけでなく、人々の生き生きと楽しそうな姿も良好な景観として捉え、交流や賑わいが生まれる都市空間を形成します。

⑦街の個性を引き立たせる夜間景観

- 昼だけでなく夜の街並みについてもさらに魅力的になるよう、昼とは異なる都市空間の演出、安心できる歩行環境の確保などにより、地域の個性を引き立たせる魅力的な夜間景観を形成します。

⑧周囲に比べ、高さや大きさのある建築物の景観的工夫

- 高さや大きさが突出する建築物については、周辺環境に配慮し、地域に貢献できる計画を目指します。

⑨屋外広告物の景観的配慮

- 景観的配慮を行うとともに、街をより魅力的にする広告物を推奨します。

⑩想像力がかきたてられ、物語性が感じられる景観づくり

- その土地、その場所にまつわる歴史や文化、街の人々の物語が想像できるような奥行きのある景観づくりを目指します。

3. 夜間景観の特性

魅力的な夜間景観を演出するためには、光の特性を把握した上で、効果的な方法を選択することが必要です。

光と影

- 光と影は一对で成り立っています。ただ一様に照らすのではなく、影があることにより、光が際立ちます。
- 光と影を効果的に使い、メリハリのある演出をすることで、陰影に富んだ印象的な夜間景観をつくることができます。
- 光の強弱や照らし方により、影の印象も変化するため、光の明るさだけでなく、影（暗さ）の中にも温かさを感じられることが重要です。



陰影を際立たせたライトアップ（神奈川県庁）

光の範囲

- 光はその強さや方向・角度、色合い、大きさ、位置等によって、周囲への影響範囲が変化します。
- 光の強弱や方向を変化させることで、遠方まで視認可能となるため、夜間景観を演出する際は周囲への配慮が必要です。



遠方からも望見できる観覧車（コスモクロック）

光の影響

- 光は、同じ光であっても、年齢、視機能、感覚・心理的な状態、あるいは季節、気候、天候、時間、場所、その他の環境条件によって、個々の人が受ける影響や印象は大きく異なります。
- 住居内への侵入光による居住者の安眠・プライバシーの阻害や、動きのある光やサーチライトなどは、広範囲の周辺住民へ影響が及ぶ可能性があるため、使用する際は配慮が必要です。



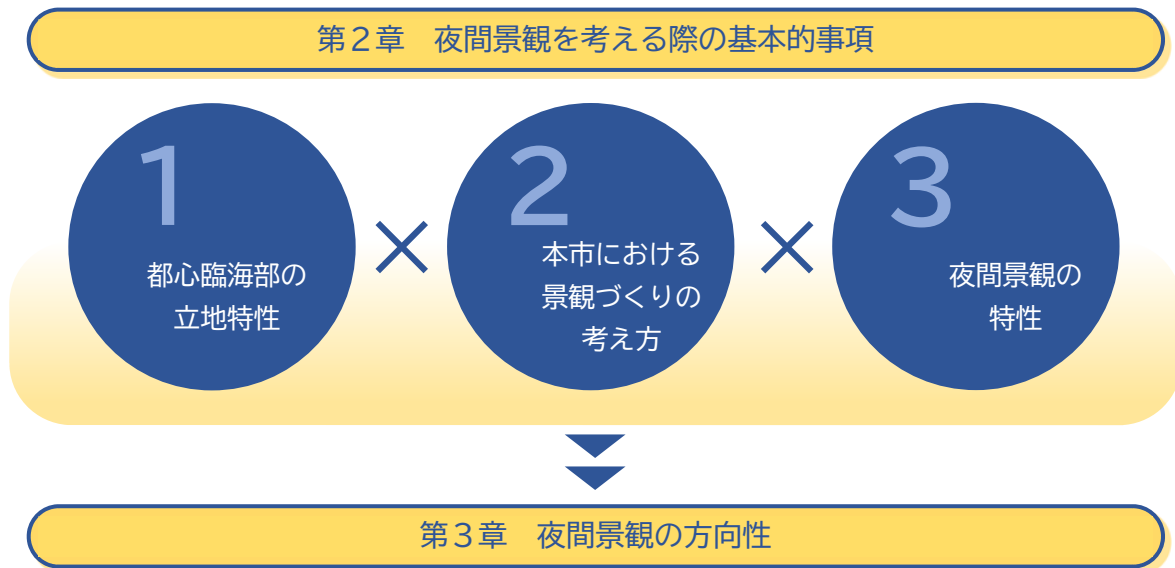
高層マンションの頂部の照明（ザ・タワー横浜北仲）



小規模な飲食店街の夜間景観（こんばんは横丁）

第3章 夜間景観の方向性

第2章で示した基本的事項を踏まえ、都心臨海部の夜間景観で目指すべき方向性を示します。

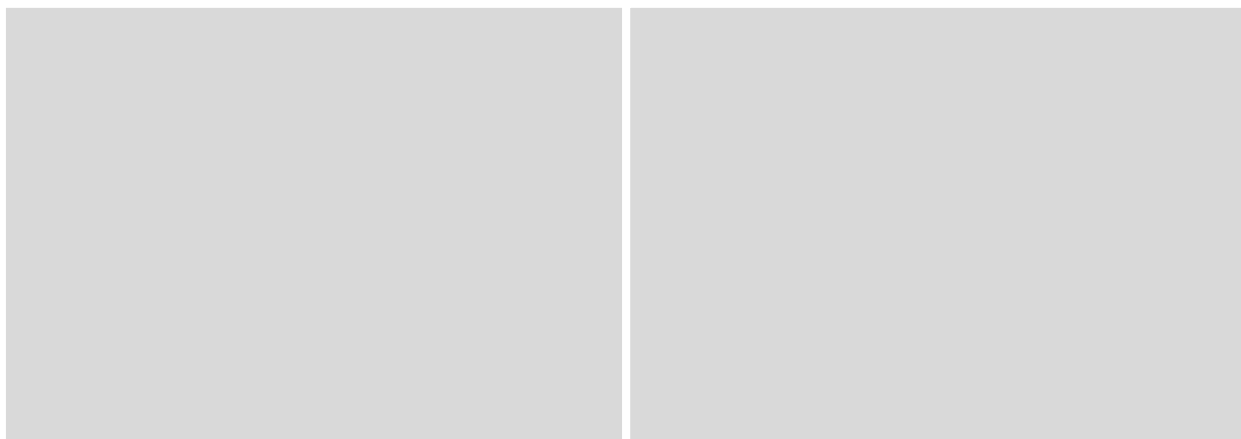


1. 魅力ある夜間景観により実現したいこと

これまでの全般的な景観づくりの考え方を踏襲しながらも、夜間景観ならではの特徴を活かして、横浜の街として以下の実現を目指します。

1-1. 昼と夜の異なる顔で、横浜の景観を2度味わう

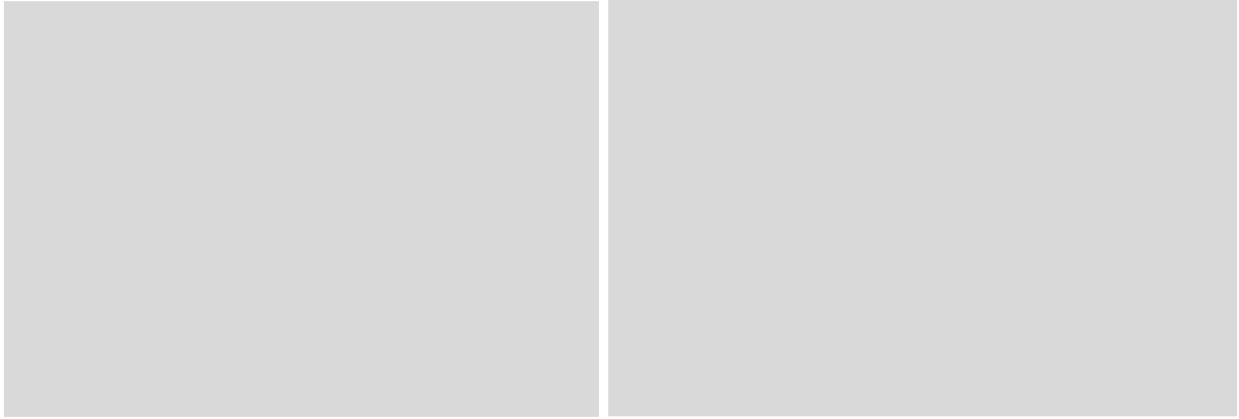
光の特性を活かし、特徴的な建物を際立たせたり、複数の建物を同じ色でライトアップするなどまとまりとして見せたりすることにより、昼は多くの建物に埋もれて見えなかった個性を顕在化させ、あるいは同じ建物でも異なる見え方をさせるなど、昼とは異なる街の表情を楽しませることができます。昼と夜の異なる顔を演出することで、昼だけでなく夜まで滞在したくなる街を目指します。



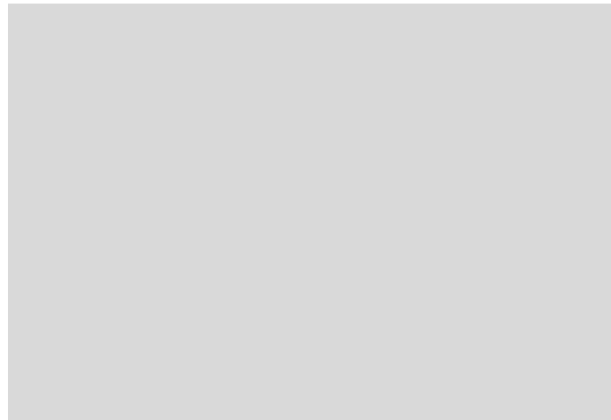
昼と夜の建物の見え方の変化（横浜市開港記念会館）

1-2. 非日常を楽しむ

光を主体とする夜間景観の演出は、照らす対象となるものを改変することなく、普段とは異なる街の新しい表情をつくりだすことができます。期間限定のイベントなど、普段とは異なる非日常の体験を提供することで、市民や就業者が変化を楽しめ、来街者が何度も訪れたいくなるような街となることを目指します。



日常と非日常の建物の見え方の変化（横浜美術館）



通常の様子（横浜美術館）

1-3. エリアを越えた都心臨海部（インナーハーバー）のスケールで魅せる

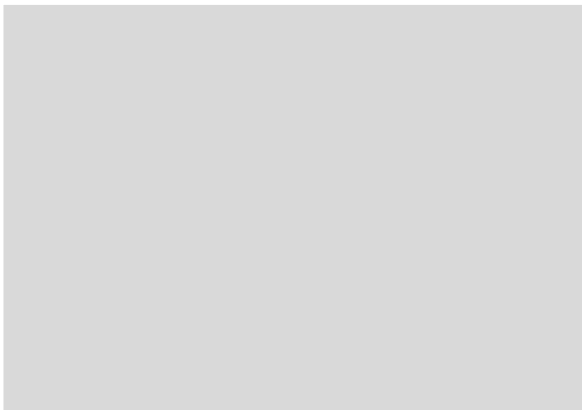
横浜の景観づくりの基本は、一定のまとまりを持った特徴あるエリアごとに、それぞれの特徴を活かした（夜間）景観形成をしていくことです。海上や棧橋・埠頭、水際線などから一望できるインナーハーバーという立地特性とスケール感を活かすことで、常時の夜景とイベント的な演出時の双方において、横浜でしかない都市空間体験の創出を進めます。



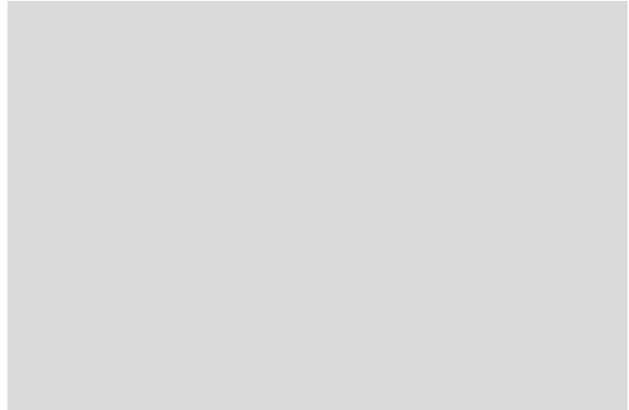
都心臨海部のパノラマ

1-4. 夜間も安全・快適に街を楽しむ

照明は、足元や行先を照らし、夜間の歩行や移動の助けとなるものです。さらに、平坦な地形の都心臨海部においては、歩行空間自体が周囲の夜間景観を眺める視点場となります。安全・安心に移動できると共に、周囲の夜間景観を楽しむことができるよう、快適で落ち着いた歩行空間の照明環境を整え、夜間の回遊性向上につなげます。



歩行空間のフットライト照明（汽車道）




連続するポール灯（象の鼻パーク）

1-5. 横浜を象徴する“いつもの”景色をつくる

市民にとっては、旅行先から帰ってくる際に見るとホッとするような、また来街者にとっては、一度行ってみたい・また行きたいと思えるような、横浜らしい印象的な「いつもの」景色を形成し、未来に維持していきます。

横浜都心臨海部の夜景



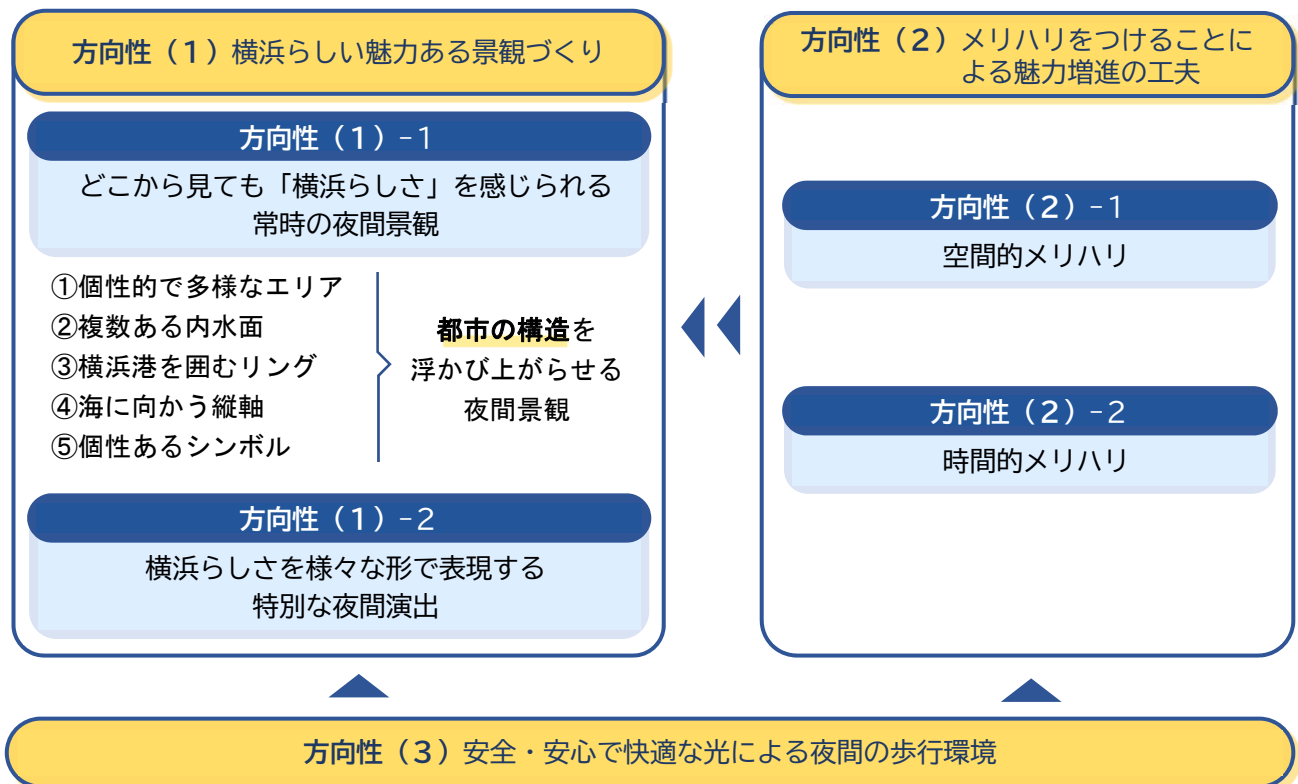
2. 夜間景観の方向性

前項で示した、魅力ある夜間景観の実現に向け、都心臨海部が目指す夜間景観の方向性を以下のとおり示します。

都心臨海部の夜間景観の方向性

(仮) 新・ヨコハマ夜景

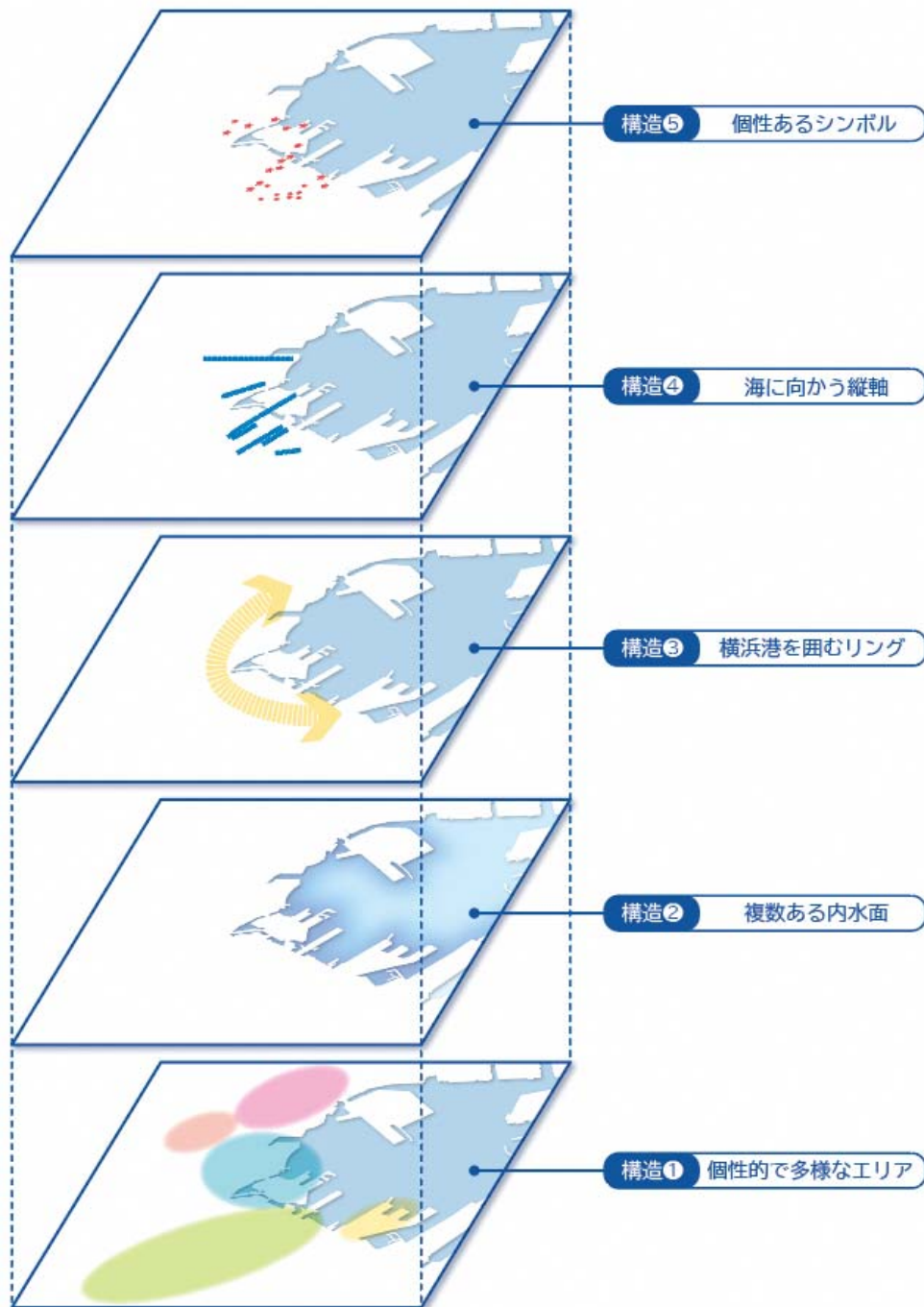
多くの人を惹きつける新しい夜景演出を可能とするとともに、これまでの落ち着いた夜景をより魅力的にし、それらのコントラストを高めることで、互いに引き立て合う多様な夜間景観／横浜らしさをつくり出す。



方向性（１）横浜らしい魅力ある景観づくり

方向性（１）-1 どこから見ても「横浜らしさ」を感じられる常時の夜間景観

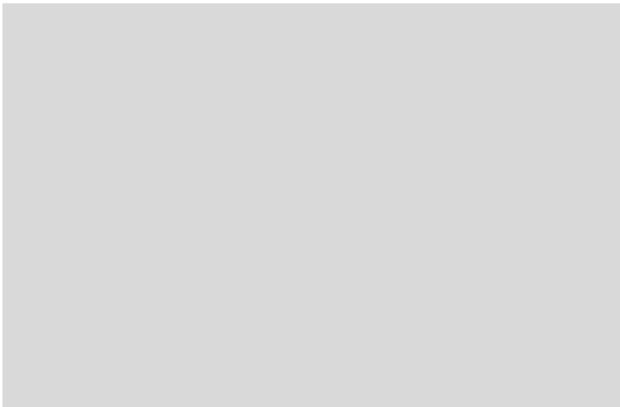
都心臨海部の景観は、これまでの歴史で育まれてきた都市基盤が層状に重なり合って形成されています。これらの都市の構造をひとつひとつ光で際立たせることで、歩行空間や高台、海上など、どこから見ても「横浜らしさ」を感じられる夜間景観をつくり出します。



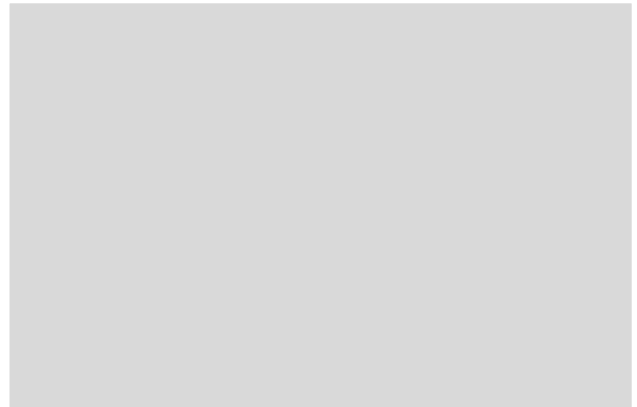
「横浜らしい」夜間景観を構成する都市の構造

構造① 個性的で多様なエリア

- 都心臨海部には、特色の異なるエリアが隣り合いながら、複数存在しています。これらのエリアは、街の成り立ちや歴史によって培われてきたものです。
- これまでの各エリアの景観づくりの考え方を継承し、エリアの特色にふさわしい夜間景観を演出することが期待されます。
 - 色温度や光によって強調する位置を統一するなど、エリアが持つ特徴にあわせて演出を変えることにより、エリアのまとまりを際立たせることができます。



オフィス・ホテルの白色系の色調で統一された照明
(みなとみらい21)



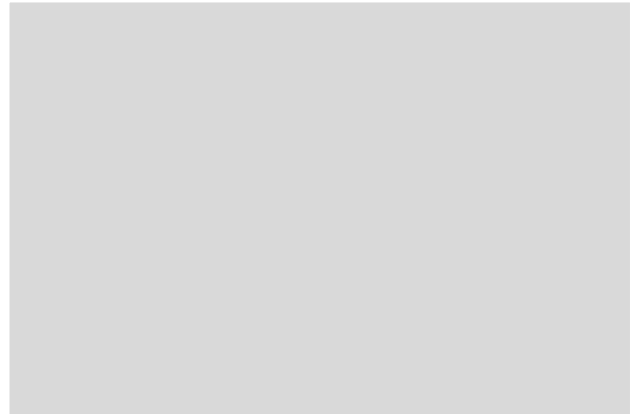
赤色をアクセントに暖色系、鮮やかな照明で賑やかさを演出した照明
(横浜中華街)

構造② 複数ある内水面

- 河川の河口、島状のふ頭により、複数の内水面が形成されており、様々な場所で暗い水面を挟んだパノラマ景観を楽しむことができます。
- 内水面を囲んだ視界の広がり意識しながら、夜間景観においても、対岸や内水面からの光の見え方、表情を演出することが期待されます。
 - 川沿いや水辺に位置する建築物では、対岸や内水面側を裏とせず、しっかりと顔を作りましょう。また、映り込みも意識した光とすることで、街の一体感や魅力ある水景をつくりだすことができます。
 - 護岸の壁面や川沿いの樹木などのライトアップを行うことで、水面に映る風景に変化をもたらし、水面の映り込みも含めた新たな魅力をつくりだすことができます。
 - 水辺に沿った歩行空間に、街路灯や手すりの照明などを整備することで、散策を楽しみつつ、水の軸線を実際立たせる演出をすることができます。



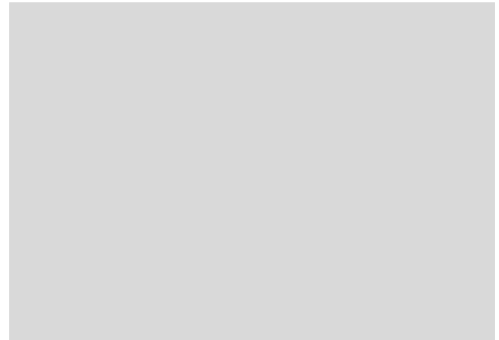
水面に反射する照明



護岸・沿岸のライトアップ（象の鼻パーク）

構造③ 横浜港を囲むリング

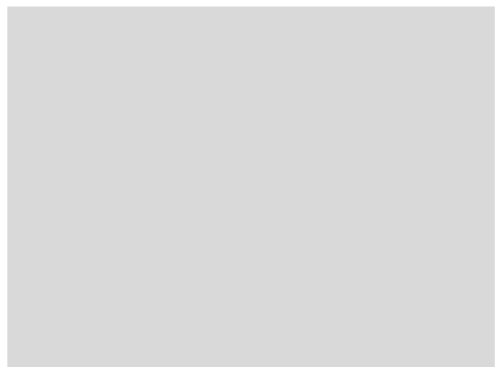
- 内港に沿って湾曲した水際線やそれに平行する通りは、多くの来街者が複数のエリアを行き来するための動線となっています。また、海上からは複数のエリアが一望できるパノラマ景観が広がっています。
- エリアを横断する歩行者の目線からは、横浜港を囲む一帯のまとまりを感じられつつも、エリアと共に移り変わる景観の変化やシーケンスを体験できます。
 - 歩行空間の照明の照らし方の統一や、水際線においては水面への映り込みを意識することなどにより、複数のエリアを貫くリング状の繋がりを際立たせる工夫を行うことで、エリアを横断した都心臨海部の夜間景観の連なりを表現することができます。



水際線のライトアップ

構造④ 海に向かう縦軸

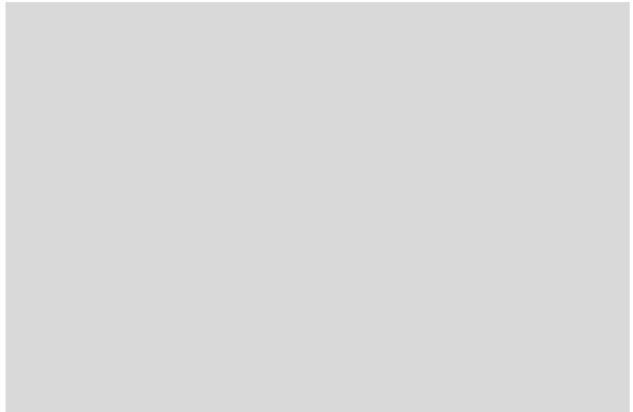
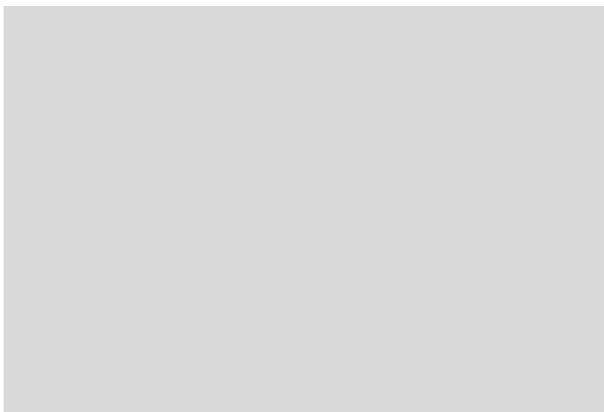
- 海に向かう縦軸の商店街や通りでは、既に夜間も含めてそれぞれ特色ある景観が形成されています。
 - 通りの特色に応じて灯具や色温度を統一するなど工夫を行うことで、歩行者にとっては、通りごとの特色が楽しめるとともに、海側へ誘うアプローチ空間となります。
 - また、海側から街へ戻る際には、その先に存在する街への期待感を高めるよう、辻部分から縦軸への誘導を意識し、辻部分に通りの特色を感じられるような照明演出を施すことで、回遊性の向上も期待できます。



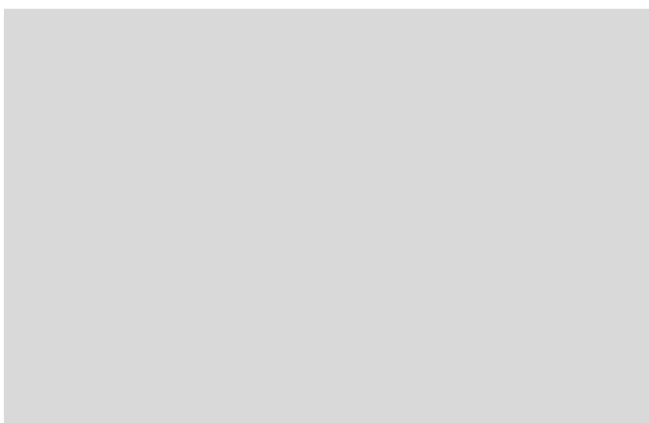
横浜スタジアムから望む日本大通りと海

構造⑤ 個性あるシンボル

- 都心臨海部には、横浜三塔をはじめとした歴史的建造物や、港町らしさを感じる施設など、横浜の特徴やエリアを象徴する施設が点在しています。
 - これらのシンボルとなる建築物については、その特徴を効果的に魅せる照明を施すことで、昼とは異なる形で都心臨海部やエリアを印象づけることができます。
 - 特に歴史的建造物は、その意匠や外装も価値のひとつであることから、照明の強さや色彩は、建築物が本来持つ色彩や質感を尊重して選択することが望ましいと考えられます。
 - 橋もシンボルのひとつとして存在感を高めることで、エリア間の個性の切り替えや回遊性の誘因が期待できます。アーチ橋、トラス橋などは構造が際立つ光や、吊り橋や桁橋は柱や桁の縦横の軸が際立つ光など、橋の構造やデザインに応じたライトアップを選択したり、外装材の種類に応じて光の色を選択したりすることで、特徴を活かして存在感を高めることができます。
 - 常設のモニュメント・アート作品なども、街の中での特異点として、通りや敷地内の他とは異なる照明を施すことで、景観のアクセントとすることができます。



シンボルとなる建築物等の昼と夜の見え方の変化（横浜マリントワー）



歴史的建造物の本来の色を尊重した照明（横浜赤レンガ倉庫）

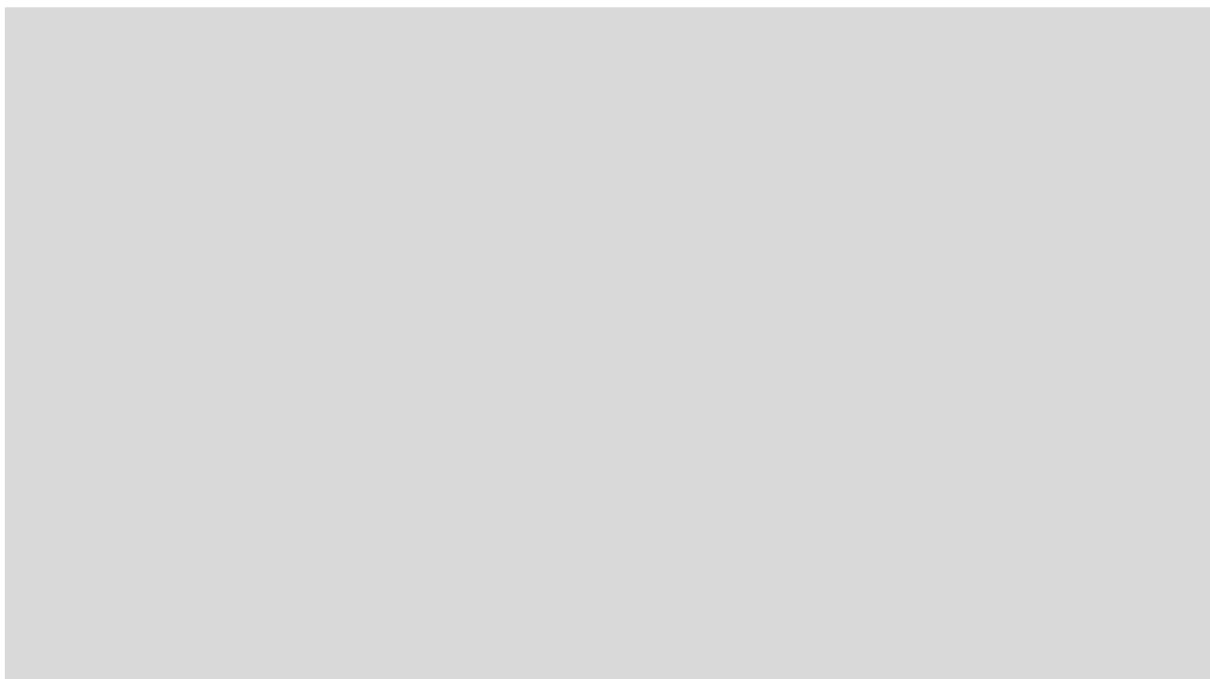


海と調和した寒色系の照明（バイブリッジ）

方向性（２）メリハリをつけることによる魅力増進の工夫

方向性（２）-1 空間的メリハリ

- 夜間景観の計画にあたっては、エリア全体をただ明るくするのではなく、特定の建物や通り、エリアの一部を強調するなど、空間的なメリハリをつけることで、抑揚のある街並みとなります。
 - 歴史的建造物などのシンボル施設を印象づける光の演出をする一方で、その周囲では控えめな照明とするなど、敷地同士の光の演出に強弱をつけることで、空間全体に変化が生まれ、回遊性の向上につながります。
 - また、ひとつの敷地内での光の演出においても、来街者を迎えるゲート空間は明るくし、それ以外の部分は落ち着いた光とするなど、メリハリのある演出とすることで光のおもてなしをデザインすることができます。
 - 建物のエントランスをスポットライトで照らしたり、入口部分や足元をダウンライトで照らしたりすることで、建物の入口や動線を明確に示し、おもてなしの空間を創出することができます。



エントランス等、建物の一部を際立たせる照明（びあアリーナ）

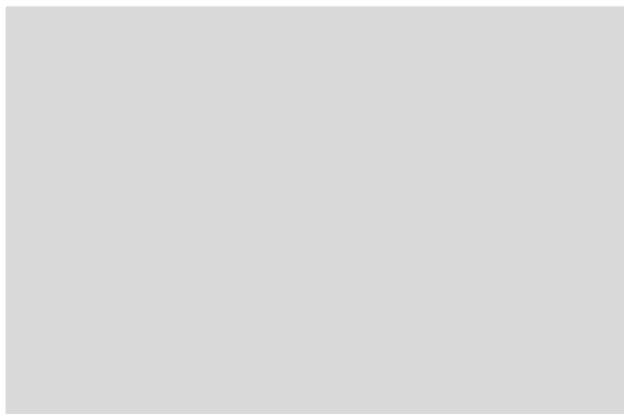
〈コラム〉 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

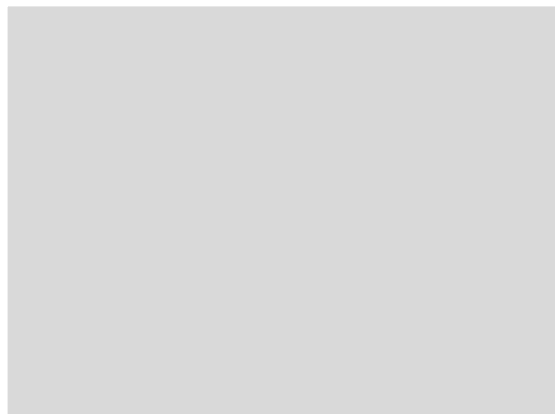


方向性（3）安全・安心で快適な光による夜間の歩行環境

- 横浜の夜間景観を安心して楽しむことのできる歩行環境を整えるためには、視界を確保し街なかの死角をなくす安全性だけでなく、居心地の良さや温かさを感じる安心・快適な光環境とすることが大変重要です。
- 歩道やプロムナード、敷地内通路などの歩行空間の光環境の工夫によって、特定の場所に人を誘引したり滞留したりと、回遊性の向上にもつながります。
 - 夜間景観を楽しむことができ、かつ歩きやすい歩行空間は、目線の高さを避けて足元を照らすなど、光源の位置や強さ、向きなどに配慮して計画する必要があります。
 - 沿道の建築物の漏れ光なども、内部の様子が垣間見え人の気配を感じられる、安心感のある夜間景観の形成に重要な要素です。
 - 店舗などは、閉店後にも光を抑えてショーウィンドウや入口をほのかに照らすことなどにより、賑わいの余韻を残した夜間景観を演出することができます。
 - 歩行空間だけでなく、休憩したり座って夜景を楽しんだりできる滞留空間においても、ベンチ等の足元を照らすことなどにより、利用時の安全性と居住性を確保します。
 - 歩行者や自転車の通行の妨げとならないよう、まぶしすぎない器具を選択しましょう。



ベンチ下の照明（戸田市）

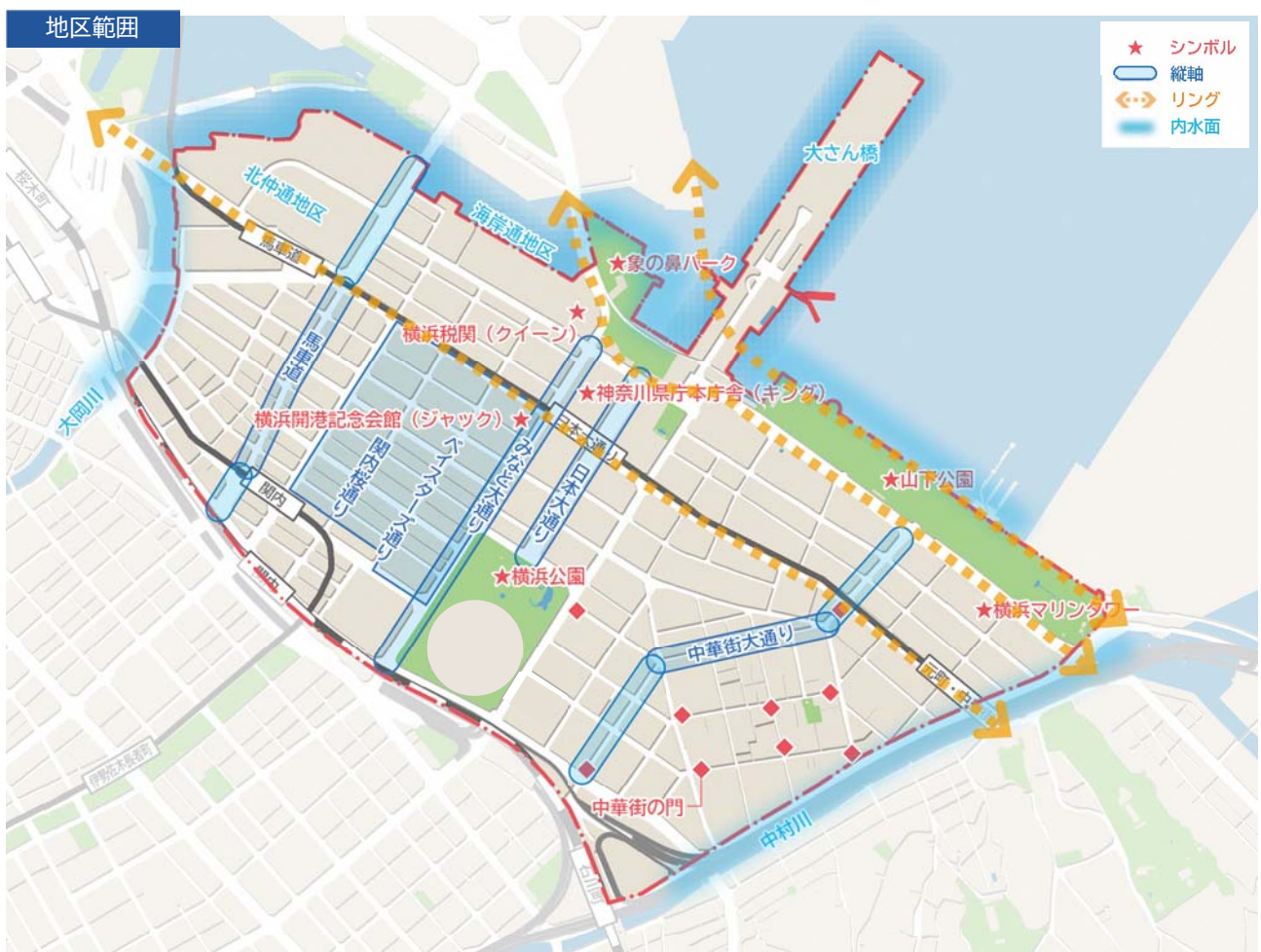


人の気配のする建物からの漏れ光（MARINE & WALK YOKOHAMA）

第4章 地区別の方針

都心臨海部のうち、景観推進地区（景観計画）および都市景観協議地区として指定されている3地区について、「第3章 夜間景観の方向性」を踏まえ、地区別の特性や方針、照明等を計画する上で配慮すべき事項を示します。

1. 関内地区



1-1. 地区の特徴

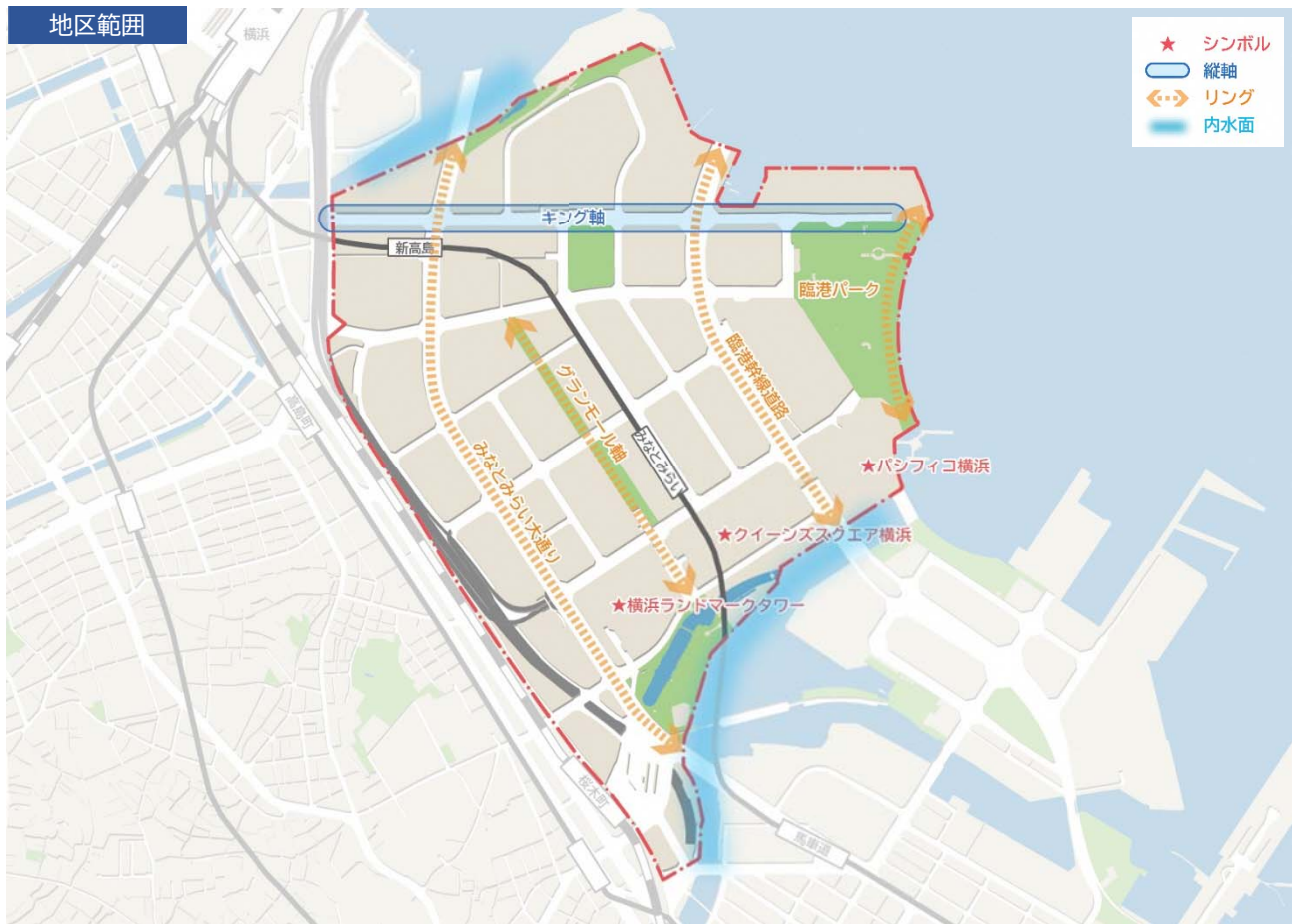
- 神奈川県庁などの横浜三塔や神奈川県立博物館など、歴史的建造物が多く建ち並ぶとともに、中華街や馬車道などの特徴ある商店街が点在する、開港からの歴史が感じられるエリアです。
- その一方で、業務や公共的機能が集積するエリアでもあり、近年では高層のオフィスビル等も建設が進んでいます。

1-2. 方針・配慮すべき事項

歴史的建造物や商店街の個性を引き立たせるとともに、賑わい形成をより一層進めることにより、夜間においても開港からの歴史を感じつつ巡り歩いて楽しめる街を目指します。

- 歴史的建造物は、その構造や形態、色などの特徴を演出する夜間照明とし、魅力的に演出します。
- 歴史的建造物が引き立つよう、その周辺施設では壁面照度等に配慮し、全体として落ち着いたある日常の夜間景観を形成します。
- 歴史を尊重した地区内であることに配慮し、遠景からも関内らしさを感じられるよう、高層ビルの高層部は落ち着いた夜間景観とします。
- 中華街の門は、地区の個性を象徴する建造物として、それぞれの色・形に合わせた照明計画とします。
- 象の鼻パークは、開港の港としての存在を強調する照明計画とします。
- マリントワーは、かつての灯台として、関内地区だけでなく横浜港を象徴するような特別な照明計画とします。
- 横浜公園は、関内駅に面する関内地区の玄関口であり、市民が緑に触れる憩いの場として親しまれています。公園の歴史性を尊重する落ち着いた照明を基調とし、夜間も公園利用者が安心できる光環境を目指します。
- 山下公園は、海への眺望が開けた立地であるとともに、氷川丸やバラ園など見どころも多く、市民や来街者が安心して散策を楽しめる落ち着いたある夜間景観を基調とします。
- 歴史的建造物が多く建ち並ぶ「開港軸」である日本大通りでは、歴史的建造物が引き立つような光環境とするとともに、景観重要樹木であるイチョウが美しく映えるよう演出します。また、横浜公園側と象の鼻パーク側の双方から軸性を感じられるよう演出します。
- みなと大通りでは、水際線と関内、関外をつなぎ人を誘導する新たな回遊軸として、夜間も人を誘導し、みなと大通りとしての特徴を感じられる夜間景観とします。
- 中華街大通りでは、街路灯は中華街らしさを感じられるような設えとし、イベント時には提灯やランタン等の赤味のある光により賑わいを演出します。
- 馬車道では、開港直後の歴史を印象付けるガス灯プロムナードを際立たせるため、照明の位置や向きに配慮が必要です。
- 碁盤の目状の繁華街では、街路ごとの特徴を感じられるよう、街路灯の統一等の工夫が大切です。
- 大さん橋や山下公園では、海上や対岸からの見え方に留意するとともに、アイレベルの照明の照度を落とすなど、周囲の夜景を眺める視点場としての配慮が必要です。
- 山下公園や山下公園通り、海岸通りでは、沿道の建築物等の漏れ光や、足元を照らす照明等により、ガス灯が持つ落ち着いた雰囲気損なうことなく、安全・安心な歩行環境とします。また、山下公園にはクルーズ船の乗降場もあることから、海側からの見え方を大切に、水際線を際立たせることや、山下公園通り沿いの建物の高層部は落ち着いたながらも海側に顔を向けることが大切です。
- 大岡川や中村川といった川沿いの建物では、安心して歩行できる光環境とします。

2. みなとみらい 21 中央地区



2-1. 地区の特徴

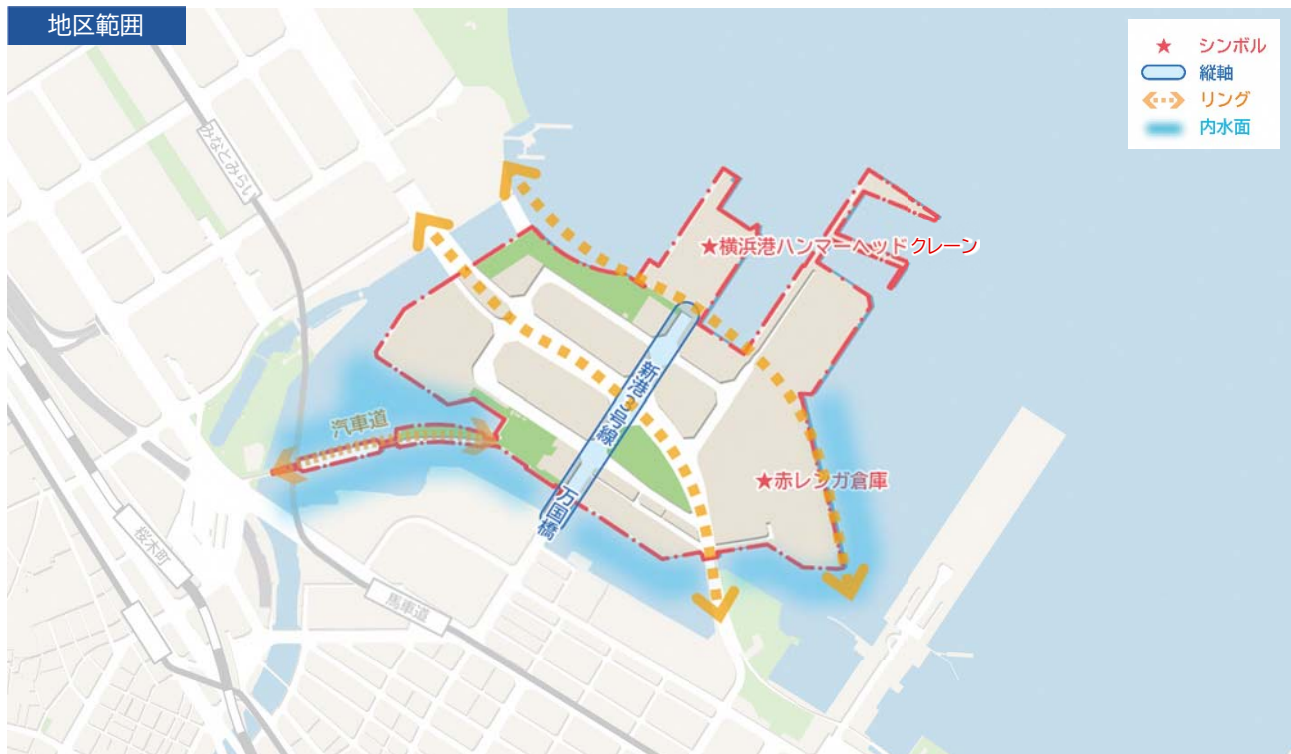
- 横浜駅周辺エリアと関内エリアをつなぐ場所に位置する、超高層ビルのオフィスが建ち並ぶ業務集積エリアです。近年ではエンターテインメント施設も整備が進んでいます。
- このエリアではこれまで、ランドマークタワーからクイーンズタワー、インターコンチネンタルホテルの一連に代表される、陸側から海側へ向かって低くなるスカイラインを形成してきました。また、海へ向かう軸には白系、それに直行する軸には橙系の車道照明を採用することにより、超高層ビルが建ち並ぶ中でも、大体の方向がわかるような工夫がなされています。同時に、低層部でのにぎわい形成や、歩行者デッキによる歩車分離などにより、歩行者を大切にしたまちづくりを進めてきました。さらに、豊かな緑の空間づくりを行っており、キング軸やグランモール軸はエリアの中の象徴的な軸であるとともに、憩いの空間にもなっています。

2-2. 方針・配慮すべき事項

スカイラインの強調や歩行者空間のにぎわい形成による落ち着いた夜間景観形成を引き続き進めるとともに、新たな魅力を創出し、昼夜問わず人を惹きつけ続ける街として、夜間においても、イベント等の特別演出などによるより一層のにぎわい形成を目指します。

- ランドマークタワーからクイーンズタワー、インターコンチネンタルホテルにかけては、夜間景観においても、スカイラインを強調する照明計画とします。
- キング軸では、樹木のライトアップや足元照明などにより、緑の軸線としての特徴を活かした、軸のスケール感を感じられる照明計画となるように工夫が必要です。
- 臨港パークなどの水際線では、安全な歩行空間を形成する足元の照明を設置するとともに、周囲の夜間景観を楽しめる視点場として、グレアを減少させた光環境とします。また、海への映り込みを意識した照明計画とします。
- 横浜駅周辺エリアや関内地区からの入口では、歩行者デッキの連続する照明などにより、このエリアへ出迎える、いざなう光環境を整備します。
- グランモール軸では、沿道の店舗からの漏れ光や、舗装に埋め込まれた夜光海パイプにより、安全・安心かつ落ち着いた歩行者空間を形成します。
- 歩行者デッキでは、軸の方向を意識した照明計画となるよう工夫が必要です。
- エリアの北辺や東辺では、内水面越しに見られることを意識し、ポートサイド地区や関内地区（北仲地区）、みなとみらい21新港地区からの見え方を大切にしたい照明計画となるよう工夫が必要です。

3. みなとみらい 21 新港地区



3-1. 地区の特徴

- 赤レンガ倉庫やハンマーヘッドクレーンといった、港町横浜の歴史が感じられる島状のエリアです。同時に、港湾緑地を多く有し、遊園地や博物館が立地するなど、イベント等のエンターテインメント性も強いエリアとなっています。
- 地区のシンボルである赤レンガ倉庫の雰囲気を感じられるように、温かみのある色温度（電球色程度、色温度 3000K 前後）の光で演出するとともに、エリアの内外から、島であることを感じられるような工夫がなされています。

3-2. 方針・配慮すべき事項

港町横浜の歴史的資源である赤レンガ倉庫やハンマーヘッドクレーンを引き立たせるとともに、これらと調和した夜間景観を基本とし、島であることが感じられ、夜間も訪れたいくなる賑わいや楽しさを体感できる街を目指します。

- 自動車道から赤レンガ倉庫への通景空間においては、赤レンガ倉庫の周囲は落ち着いた照明とするなど、地区の最大のシンボルである赤レンガ倉庫を魅力的に引き立たせる夜間景観とします。
- 海上や他地区から赤レンガ倉庫が象徴的に見えるよう、イベント時においても、赤レンガ倉庫への投影広告物等は海側からは見えないよう配慮が必要です。
- ハンマーヘッドクレーンを象徴的に演出するため、周辺は落ち着いた照明とします。
- 万国橋から海へ向かう軸線（新港三号線）では、海へいざなう軸線を感じられる光環境を目指します。

- 水際線プロムナードでは、安全な歩行空間を形成する足元の照明を設置するとともに、周囲の夜間景観を楽しめる視点場として、グレアを減少させた光環境とします。また、島であることが地区外から感じられるよう、水面への映り込みを意識することが必要です。
- 橋梁や自動車道では、隣接する地区から当地区（島）へ、地区の特徴が切り替わるゲートとして特徴を活かした印象的な演出を行います。また、橋梁は、個々の特徴を活かすよう、光の当て方や色調に工夫が必要です。

第5章 光の作法

1. 魅力的な光のあり方

夜間景観や照明のデザインを行う際には、光の特性を理解し、心地よいあかりを演出する必要があります。照明の検討・計画時に考慮すべき基本的な考え方は、以下のとおりです。

①適切な色温度

- 色温度とは、光源の光色を数値で表したもので、数値が低いほど赤みを帯びた光、数値が高いほど白色～青みを帯びた光になります。
- 照らす対象や目的によって適切な色温度を選択することが大切です。
- 周辺の景観や照明に調和した色温度を選択し、明るくまぶしすぎない、街なかのシンボルを引き立たせる計画とすることが求められます。
- 建築物の壁面や樹木等の自然物は、それぞれの要素が本来持っている地の色を尊重し、ライトアップの色彩や色温度にも配慮が必要です。

イメージポンチ

④動きのある光への配慮

- 同じ光の量であっても、点滅する光や動きのある光・映像などは、光の印象が強くなります。
- 屋外広告物やサイン、イルミネーション等の設置等にあたっては、周辺の夜間景観と調和しているか、必要以上に眩しく目立つ光になっていないか、形態や照明の方法に配慮が必要です。

⑤季節や時間に合わせた演出

- 日本は四季の変化に富んだ気候で、季節によって昼夜の時間や温度・湿度、天候の変化があり、それぞれ環境の変化によって光の通り方や見え方も変化します。
- 樹木も、葉の繁り方や紅葉の有無等により、魅力的に映えるライトアップの方法が異なります。
- また、1日の中でも夕暮れ・宵の入り・深夜など、時間帯によって人の動きや街なかに求められる光も変化します。
- こうした時間や季節の変化に合わせて点灯時間や光の強さや色などを調整した計画をすることで、メリハリや変化に富んだ時節にふさわしい夜間景観を演出することができます。



紅葉のライトアップ（日本大通り）

2. まちの魅力をもつ照明手法等

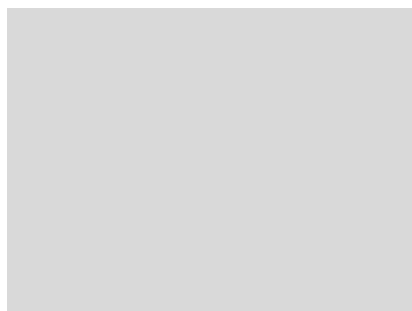
魅力ある夜間景観を形成するため、照明を検討する際は、場所・空間や対象物に応じて効果的な手法等を選択することが必要です。

ここでは、より効果的な照明手法等を検討するために考慮すべきヒントを示しています。

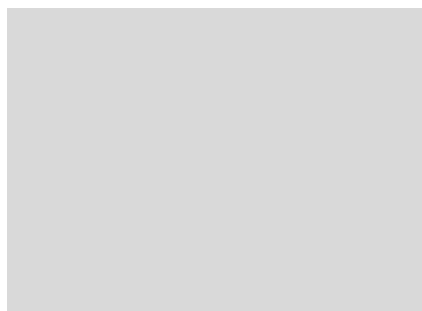
①歩行空間のあかり

- 歩行空間を照らす道路照明は、上方に漏れる光を抑制し、路面を効率よく照らすだけでなく、歩行者の足元に向けた光を取り入れ、落ち着きや安心感を演出しましょう。
- 街路樹を照明で演出する際は、場所や季節に応じた演出を心がけ、通りの個性を高めましょう。
- 歩行空間に設けたベンチ下部の間接照明など、ストリートファニチャー等を効果的に照らすことにより、歩行者の安全性の確保や空間の連続性、賑わいなどを演出しましょう。
- 歩行空間の照明器具は周囲のまちなみのあかりとの調和を考慮した光源にし、歩行者動線に沿って適切に配置しましょう。
- 敷地内の歩行空間では、道路照明との相互関係を配慮しながら、道路空間と一体に捉えて夜間景観を形成するよう照明を検討しましょう。
- 連続的なあかりの配置や、軸性を演出するライトアップ等により視線を誘導することも可能です。
- ペDESTリアンデッキなどにつながる階段は、手すりに足元を照らす照明を設置することで視認性が向上し、安全性を高め、動線をつくることができます。

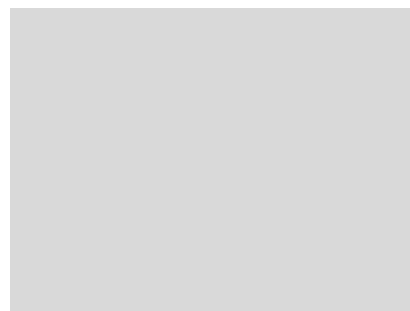
イメージポンチ



足元灯の設置（象の鼻パーク）



ベンチ下の照明（戸田市）



周辺との調和に配慮した街路照明（墨田区）

②水辺のあかり

- 河川や海辺の水際は、水辺付近の敷地や樹木などのライトアップにより、水際の光が連続的につながるように配置しましょう。また、水面へのあかりの映り込みを意識した照明計画にしましょう。
- 間接照明やフラッドライトなどの照明器具により、建物のファサードをライトアップすることで、あかりを効果的に水面に映すことができます。
- 水辺付近の建物低層部の店舗などは、夜間の人通りに留意し、通りに面する漏れ光により水辺や通りの賑わいを演出しましょう。また、漏れ光は、隣接する建物との調和を考えて照明器具を設置するなど配慮しましょう。
- 建物低層部から親水空間のデッキや遊歩道、水面までを、連続的な照明により演出するよう配慮しましょう。
- 河川に掛かる橋梁など川沿いの景観資源を光で演出し、夜間の魅力を引き出しましょう。

イメージポンチ（水辺）

写真

写真

写真

護岸の照明と水面への映り込み（●●）

沿岸の樹木のライトアップ（大岡川）

橋脚・支柱のライトアップ（バイブリッジ）

③建築物などのあかり

- 建物の入口やショーウィンドウを意識的に照らすことで、建物の要素を際立たせたり、ゲート空間を演出したりすることができます。
- 建物の外壁意匠の凹凸感等を際立たせる下からのライトアップにより、光と影を浮かび上がらせ、象徴性を高めるとともに、昼とは異なる姿を演出することができます。
- 投光器を使用する場合は、地中埋設や植栽等により遮蔽し、昼間の景観にも配慮しましょう。
- 地域のシンボルとなる建築物や橋梁などは、個々の施設の構造や意匠の特徴を活かした照明により、個性を魅力的に演出しましょう。
- 建物低層部の店舗などは、夜間の人通りに留意し、通りに面して漏れる明かりにより通りの賑わいを演出しましょう。

イメージポンチ

写真

ゲート空間の演出（大阪市）

写真

低層階の漏れ光（丸の内仲通り）

写真

構造を際立たせる歴史的建造物の照明（横浜税関）

④植栽のあかり

- 植栽の鉛直面の明るさを作ることで、動線を明確にし、まちなかで緑の広がりを感じることで、心地の良い外部空間とすることができます。
- 樹木の高さや種類（常緑・落葉の別など）にあった照明を選び、高木は下から樹木を照らすことで、木々の枝葉が綺麗に浮かび上がり昼間とは異なる演出ができます。
- また、低木は低ポール灯の設置や植栽内に光源を設置するなど、植栽の上や中から照らすことで、植栽の緑を美しく見せることができます。
- 葉の色に配慮した色の光源とし、樹種を活かした照明を行うことにより、通りや場所の個性を演出することができます。
- 植栽の連続的なあかりの配置や、方向性を演出するライトアップにより、視線の誘導性を増すこともできます。

イメージポンチ

写真

写真

写真



⑤屋外広告物のあかり

- 照明装置や映像装置（デジタルサイネージ）など、光源を使用した屋外広告物は夜間景観に大きな影響を与えることから、エリアの特徴を踏まえ、まちの個性にあった照明計画としましょう。
- 周囲の夜間景観をふまえ、メリハリをつけて照らすなど、全体の光量は抑えつつ効果的な演出方法を検討しましょう。
- 内照式の照明装置を使用する場合は、箱文字部分に限るなど配慮することで、より魅力的な広告景観を演出することができます。
- 外照式の照明装置を使用する場合は、直接光源が見えないよう、照明の配置や光源の遮蔽に配慮しましょう。
- 映像装置を使用する場合は、周囲の景観や光環境への配慮が特に必要です。周囲に比べて、動きの激しい動画を用いたり、映像装置の輝度を上げたりすること等は避けましょう。
- プロジェクションマッピングなどの投影広告物は、作成する動画等の内容によって、動きや色で多種多様に演出することができることから、演出内容や題材、光の取り扱い、頻度等には配慮が必要です。



